

アプトの道ハイキング報告

【山行日】2024年 11月 13日(水) 晴れ

【集 合】岩舟支所 P AM 6:00

【費 用】マイカー1台 : 4,300円

【メンバー】CL: 鈴木ユ、 飯野、関、渡邊ト

【コースタイム】岩舟支所 6:00＝鉄道文化村

P7:30/7:50～丸山変電所～峠の湯～めがね橋

～熊の平駅 9:50/10:00～めがね橋～峠の湯～

丸山変電所～鉄道文化村 P11:45/11:00＝

おぎのや 11:55/12:25＝めがね橋 12:35/13:00＝

碓氷湖 13:05/13:30＝岩舟支所 P14:40



「めがね橋を見たいので計画して」と依頼され、「ハテ？長崎のめがね橋？」と思ったが、話を良く聞くと信越本線廃線跡のめがね橋だと分かった。11/2(土)に計画したが雨で中止となり、11/13(水)に平日山行でアプトの道ハイキングを計画した。岩舟支所を6:00に出発し、北関東道から上



信越道へと進み松井田妙義 IC で降りる。ここから国道18号線を軽井沢方面に進み、鉄道文化村駐車場に車を止める。出発の準備を整えアプトの道起点から歩き始めるとすぐにトイレがあり、済ませてから歩き出す。アプトの道とは旧信越本線横川駅から熊の平駅までの、廃線跡の遊歩道を歩くハイキングコースである。途中には丸山変電所跡やめがね橋、碓氷湖等の見どころも多く、だれでも楽しく歩ける遊歩道である。最初の見どころ碓氷関所跡は、遊歩道から離れている

のでパスして進む。架線柱に野生のサルが並んでいるのを見つけ、「ア～猿だ、かわいい」と叫ぶ。次の架線柱にも、その次の架線柱にも猿が数匹日向ぼっこしていた。どうやら猿の家族単位で架線柱に登っているようだ。遊歩道の両側にはカエデが植えられ、紅葉した木々が朝日に映えてとても美しい。皆さんのテンションも上がり、賑やかにおしゃべりしながら歩いて行く。やがて旧丸山変電所に着き、明治44年に建てられたレンガ造りの機械棟と蓄電棟は国の重要文化財に指定されている。陽射しが暖かく緩やかな登りが続き、楽しく歩くと次のスポットである峠の湯に到着。ここまでは遊歩道に並行してトロッコ列車が運行しており、お年寄りや小さなお子さんにはありがたい。駅のベンチで休憩し、ゼリーや菓子を食べながら水分を補給する。



この先からトンネルが連続し、1号トンネル、2号トンネルと抜けると左下に碓氷湖が見渡せる。

さらに進むと3号・4号・5号とトンネルが連続し、5号トンネルを抜けると本日のお目当て「めがね橋」



に着く。長さ91m、高さ31mの4連のアーリ式鉄道橋で、200万8000個のレンガで造られている日本最大の鉄橋である。その姿は芸術性が高く国の重要文化財に指定され、多くの人を魅了し旧碓氷線のシンボルである。めがね橋からの展望も素晴らしく、谷間の両側の山々は紅葉に彩られ皆さん大喜びでスマホに収めていた。ここからトンネルが5つ連続し、トンネルの中は寒くて速足で歩くようになる。最後の10号トンネルを抜けると折り返しポイントの熊の平駅に着く。当初

単線であった期間、横川～軽井沢間で唯一の平地地であった熊ノ平駅では、上下の列車が待ち合わせてすれ違いした場所である。

ベンチが置かれているが木陰で寒いので、陽当たりが良い神社の石段に腰かけてミカンや菓子をいただき休憩する。おやつをいただいたらUターンして、横川駅に向かって戻って行く。帰路は緩やかな下りなので足が自然に前に出て、超早歩きになってしまう。めがね橋に戻るとボランティアでガイドをする方がいた。皆さんに聞くと「聞きたい」との返事



で、アプトの道のお話を聞くことにした。なぜ碓氷線が作られたのか、どのようにしてこのような山中に鉄橋やトンネルを造ったかなど、歴史や苦労話を詳細に説明していただいた。ガイドの方にお礼言い、横川駅を目指して下って行く。駐車場に着いたら車に乗り、おぎのやドライブインに向かう。おぎのやドライブインには大勢のお客で賑わっており、我々も食券を購入して空いて

いる席に付く。名物の峠の釜めしを美味しくいただきドライブインを後に車でめがね橋へ向かう。めがね橋下の駐車場は満車で、ようやく端のスペースに車を止める。「これじゃあ日曜日来たら止められないね」と言いながら、めがね橋に向かって歩いて行く。めがね橋を下から眺めると迫力があり、S嬢は「下から眺めると大きさが感じられていいね！」とご満悦。階段を登って橋の上まで行き、もう一度橋の上からの眺望を楽しんだら車に戻る。



ここからUターンして碓氷湖に寄り、碓氷湖の紅葉を楽しむ。

ダムサイトまで遊歩道を歩こうと言うと、徳ちゃんは「足が痛いので待っている」と湖畔のベンチで休憩する。3人で遊歩道を歩きダムサイトから湖面に



映る紅葉を楽しんだ。湖畔を一周する遊歩道もあり、S嬢は「今度来た時は一周しよう」と歩く気満々である。それじゃあ坂本宿を歩こうと峠の湯に行き、受付の方に坂本宿を聞くと「車で通って来た町並みです」と言われる。それじゃあわざわざ歩く価値は無いと思い、そのまま岩舟支所に向かうことにした。それでも皆さん大満足の様子で、また新緑のときに歩きたいと話していた。帰路は往路を戻り松井田妙義ICから

上信越道に入り、北関東道を経由して予定より早く岩舟支所に帰着した。